

漂着物の調査 開催報告

開催日 2021年10月24日（日）

参加人数 19名（子ども 9名、大人 10名）

14

海の豊かさを
守ろう

1. 遠州灘海岸における海ごみの現状

SDGs|目標14 海の豊かさを守ろう| の取組みの一環として、「海洋・海洋資源の保全」について、身近な海岸の状況から共に考える講座を開催した。

浜松市民であれば、一度は訪れたことがあるであろう遠州灘海岸には、どんな漂着ごみがあるのだろうか？

回収したごみを実際に見て、触って、遠州灘海岸におけるごみ問題の現状と生活との関わりについて、講義した。

○講師：Hamamatsu-浜松の海を守る会 清水浩利氏○

・どこからごみは来る？

“台所は海につながっているという生活意識”
河川から流出する生活ごみが、海に流れ出ている。

・海岸の問題点？

“漂着ごみの大半がプラスチック製”であるが、我々の生活にプラスチック製品はなくてはならないもの。

⇒ ポイ捨てしない！！

・漂着ごみは景観が悪い汚い、分解しないごみが多い。
・海外からの漂着ごみ、海外への漂着ごみもしばしば。



2. 漂着ごみの調査

- ・10月10日回収@馬込川右岸河口 3袋分 **約9.75kg**
- ・2グループに分かれて漂着ごみの分別作業を行った後、砂の中に含まれているマイクロプラスチックを採取した。

回収量 合計834個

1位	硬質プラスチック破片	220個
2位	発泡スチロール破片	178個
3位	プラチックシートや袋の破片	112個
4位	生活雑貨（歯ブラシ・文具等）	43個
5位	飲料用ボトルキャップ（プラスチック）	46個

<参加者の声>

- ・小2 漂着ごみの中に靴や自転車のサドルが入っていてびっくりした。
- ・小6 漁業や建築関連のごみがあって、驚いた。
- ・高校生 生活ごみが特に多かった。一般の方がごみを多くポイ捨てしている現状を初めて知った。
- ・中学生 漂着ごみの分別は難しく大変だったが、良い経験になった。
- ・中学生 こんなに多くのごみが海岸に打ち上げられていることを知らなかったので、今後はもっと積極的にプラスチック削減に取り組みたいと思った。
- ・高校生 遠州灘の砂の中に含まれているマイクロプラスチックを実際に採取できて、貴重な体験だった。

ごみ調査データカード

